

# 1. 沿 革

庄内空港は、山形県で2つめの空港として平成3年10月1日に供用を開始した。

庄内地域は、全国的に高速交通時代をむかえる中で高速交通網の空白地域となっていたことから、「庄内にも空港を」の気運が地元産業界及び住民から高まった。この地元の熱意を受け、県は昭和55年に県の重要事業として国に要望し庄内空港建設の運動を強力に展開した。

昭和61年11月長年の設置運動がみのり、第5次空港整備五箇年計画への組み入れが閣議決定され、昭和62年度建設工事に着手した。平成3年3月には空港本体工事と照明施設工事が完了、予定より半年早く庄内地域33万人待望の開港をむかえることができた。

開港時、全日本空輸(株)が東京、大阪の2路線を運航、東京線1往復、大阪線1往復でスタートした。

東京線は高い搭乗率が続いたため、平成4年11月から2往復に、平成9年7月から3往復に、平成15年2月と3月には期間限定で4往復運航され、その後平成15年7月18日から4往復となり、また、平成18年4月1日からは夜間駐機による大幅なダイヤ改正が行われた。

大阪線は平成9年12月から冬期間の運休が始まり、平成10年12月から毎年12月～4月の季節運休となり、平成15年11月廃止となった。

その後、庄内地域の関係機関が一体となった運動が功を奏し、平成16年4月から(株)フェアリンク(平成16年10月IBEXエアラインズ(株)に社名変更)による小型機での1日1往復通年運航が開始されたが、平成21年4月廃止となった。

札幌線は平成7年6月から10月までの季節運航で開始し、一時通年運航、その後、平成10年から平成19年までは季節運航となり、平成20年4月路線休止となった。

なお、函館季節便が平成9年5月から10月までと平成10年6月から10月まで、週3日1往復運航された。

庄内空港は、地域における高速交通の要として着実な進展が図られていることにより、平成6年から7年に中型ジェット機が安全に就航できるようエプロン、ターニングパッドの拡張等空港施設の改善を実施するとともに、利用者の増加に対応するため、平成9年から10年に旅客ターミナルビルの増改築を行った。更に、航空灯火の技術基準改正に伴う航空灯火の改修工事と、それに併せ中型ジェット機の安全就航のために滑走路等の舗装嵩上げ工事を平成15年から16年に実施した。

空港周辺における環境整備については、空港を取り囲む約61haを緩衝緑地として整備している。航空機公害からの緩衝及び防風防砂に加え、スポーツレクリエーション等に利用できる都市公園施設として多くの人々に活用されている。